トビタテ！留学JAPAN　日本代表プログラム　留学状況報告書

※留学状況報告書はExcelデータで提出してください。（ファイル名：B.留学状況報告書_●期_学生個人番号_学生氏名.xlsx）

●基本情報

学生個人番号	S162V176010004
氏名(漢字)	竹内宣幸
氏名(ひらがな)	たけうちのぶゆき
所属大学等名	宮崎大学
所属学部/研究科/学科	教育文化学部学校教育課程
所属学科/専攻/コース	中学校教育コース英語専攻
課程(▼で選択)	学部
留学修了時の学年(○年)	３年
期　(○期)	５期
コース　(▼で選択)	多様性人材コース
留学開始日(yyyy/mm/dd)	2016 / 09 / 20
留学終了日(yyyy/mm/dd)	2017 / 06 / 20

●留学の活動概要と成果

活動概要と成果 **※主要な留学先を2か所記入してください。** **2か所を超える場合は、ページ下部にある「活動概要と成果（予備）に記載してください**	1	国名	アメリカ合衆国
		都市名	オリンピア
		受入機関名	The Evergreen State College　エバーグリーン州立大学
		期間 (yyyy/mm/dd)	2016 / 09 / 20 ~ 2017 / 06 / 20
		活動概要と成果	エバーグリーン州立大学に、10ケ月間の留学をした。留学計画の通りに、秋学期と冬学期には、第二言語のための英語教授法の講義を履修し、春学期には多文化教育（一つの教室に、それぞれ違う文化のルーツを持つ子どもたちがいることを想定した教育実践についての科目）の講義を履修した。 秋・冬学期は、講義名の通りに、主に英語教授法、英語学について学んだ。それと共にアメリカの国内に増えてきている移民の子どもたちの現状についても学んだ。それぞれの学期末には、英語教授法・移民に関するテーマを設定し、レポートを作成し、それに関するプレゼンテーションを行った。具体的に私が行ったものは、アメリカで生活をする日本人の方にインタビューを行い、それを基に、どのように英語を指導していくのか提案するプレゼンテーションとグループで英語の授業を提案するものだった。日本でも学んでいた英語学や教授法について、アメリカの学生とディスカッションしながら学ぶのは新鮮で、日本ではなかなか学ぶ機会がないがこれから必要になってくる移民の心理やアメリカでの移民の現状（移民の数、子どもの成績や生活等の実態）を学ぶことができた。 春学期には、韓国人の学生20名、台湾人1名、日本人1名（自分）、アメリカ人20名という環境で、多文化コミュニケーション、多文化理解、多文化教育について学んだ。多文化教育とは、一つの教室内に様々な文化が混在していることを想定した教育である。学術書で学んだことを実感を伴って理解することができる環境だったので、多文化教育への理解が自然と深化した。また、移民に関してと同じように、これからの日本では必ず必要になってくる分野にも関わらず、学ぶ機会の少ない多文化教育や多文化コミュニケーションという分野を学ぶことができた。
	2	国名	アメリカ合衆国
		都市名	オリンピア
		受入機関名	The Evergreen State College　エバーグリーン州立大学
		期間	2017 / 1 ~ 2017 / 6
		活動概要と成果	英語教授法での学習を実践につなげるために、大学で講義を受けながら、期間中週に一度の学校訪問のフィールドワークを行った。留学先大学での学びを教育実践につなげられた有意義な体験だった。実際に現地の中学校、高校を訪問し、現地のESLクラス（英語を話すことができない生徒たちが、英語を学びながら、その他科目も学ぶクラス）を観察した。それに加え、実際に授業内の活動に参加し、生徒たちに英語の指導も行った。アメリカの学校現場での英語教授法を観察し英語指導に関する知識を体験的に深められただけでなく、アメリカの移民の子どもたちの現状を直に見ることができた。私が住んでいた地域の子どもたちは、メキシコやグアテマラからの移民の子どもたちが多く、スペイン語を第一言語としている子どもが多くいた。また、基礎学力があまり高くなく、その上英語も上手に話すことができないため、現地の教員の方も指導に困難を感じていたようだった。私自身がフィールドワーク中に遭遇した困難として、生徒たちの第一言語が日本語ではないことが挙げられる。それによって、言葉を通じたコミュニケーションを取ることが非常に難しかったが、視覚材料を多用することによって乗り越えられた。 以上による成果は以下になる。一つ目に、英語教授法の知識を体験的に深めたこと。二つ目に、アメリカにいる移民の子どもたちと先生の苦悩を直に観察し、学期中に学術書で理解したことを深められたこと。三つ目に、第一言語の違う子どもたちへ英語指導を通じて、非言語材料（特に視覚材料）の有用性を認知できたこと。

日本発信プロジェクト 活動概要と成果 **※事前課題P21と研修で検討した内容をもとに記載してください**	活動タイトル (30文字以内)	宮崎と宮崎大学の発信。
	実行したこと	エバーグリーン州立大学は宮崎大学との協定校であるが、お互いの学生の交換留学以外のことに関しては、それほど交流が盛んではないと感じた。これは、交換留学制度以外の交流活動（留学生ではない宮崎大学学生と現地学生の交流活動等）が行われていなかったためである。そのため、現地の学生が宮崎と宮崎大学について知る機会はほとんどなかった。現地のより多くの学生が宮崎と宮崎大学への興味を持てるようにしてもらうために、現地の学生たち（日本語のクラスの履修者）に対して宮崎と宮崎大学に関する情報のプレゼンテーションを行った。宮崎に関しては、食、風土、言葉などをプレゼンし、宮崎大学に関しては大学の基本情報に加え、留学生のカリキュラムの説明をした。
	成果・ 気づいたこと	対象が日本に対して興味を持っている学生たちだったこともあり、興味を持って話を聞いてくれた。実際に今年度は、二人の留学生が宮崎大学に来るので、その二人にも宮崎の魅力に気付いてもらえるようにし、交換留学を盛り上げていきたい。プレゼンに関しては、宮崎と宮崎大学の魅力について上手くプレゼンできたと思う。 気付いたこととしては、近すぎるものに目を向けていなかった自分が挙げられる。日頃は「宮崎は正直に言って何もない」などと考えていた私だったが、プレゼンの準備の段階で宮崎の魅力について考えていたときに、今まで考えていなかった魅力を発見し、そういった自分に気付いた。これからは、近くて当たり前のものにも興味と新たな発見ができるような姿勢で目を向けていきたい。
留学中および帰国後の活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと **※事後研修事前課題・事後研修の内容を踏まえて記入してください** **※具体的な経験エピソードをもとに記入してください**		最後に学期に履修していた多文化教育の講義は、上記のようにクラス自体が多文化にあふれていた。そのようなクラスの中での日々は、私を急成長させてくれたと考えている。それは、クラスの中に様々な国の学生がいたので、彼らと国際関係について話す機会が多くあったためである。実際に、クラスのディスカッションの場面で韓国人の学生とアメリカ人の学生と私で第二次世界大戦の話をしたこと、韓国と日本間の問題について話したことがあった。難度の高い会話により、英語力の向上が達成できただけでなく、国際問題について話すことで、自分の考えていなっかった視点を持つことができるようになった。それに加え、様々な文化の学生と触れ合うことの多かったそのクラスを履修する中で、先入観を持たずに人と接していく大切さを実感した。それにより、これから多様化していくと予想される日本社会において、人はどのように行動していかなければならないかを深く考えることができた。
あなたにとっての留学の価値 **※事後研修事前課題・事後研修の内容を踏まえて記入してください**		○実体験を伴った学び 多様な社会、多様な人々などの日本で学ぶことができても経験できないことを実体験を伴い学べる。 ○箱の外の思考 日本の社会の中のみでは、考えることができなことが考えられるようになる。 ○語学力の向上 現地の生の言語に触れる中で確実な語学力の向上を見込める。 ○海外の友人や教授とのネットワークの構築 ○非日常の経験から新たな視点の獲得

●留学機運醸成に向けた活動

エヴァンジェリスト活動企画 **※事前課題P65.66と研修で検討した内容をもとに記載してください**	カテゴリ	イベント（大学等）
	活動タイトル (30字以内)	留学について話そう会。
	対象者・人数	30名程度
	実施場所	大学図書館
	実施時期	10月、4月。
	内容	トビタテ生に限らず、留学経験のある学生を集めて留学体験報告会の場を設定したり、留学の考えている学生に対して留学相談の場を設けたりする。経済的な面での留学の敷居が下がるように、トビタテ留学JAPANの説明は必ず行う。
	達成目標	①宮崎大学内の留学の機運を高める。 ②トビタテの認知度の向上。 ③本会が毎年開催できるように基礎を作る。
	実施に向けたアクションプラン	①留学経験者と連絡を取り、本会を提案する。 ②具体的な案について学校に相談する。 ③体験報告会で使うプレゼンの準備。

※「留学の活動概要と成果で2か所以上の留学先を記載したい場合、下記に記載してください。

活動概要と成果（予備）	**1**	国名	アメリカ
		都市名	オリンピア
		受入機関名	The Evergreen State College エバーグリーン州立大学
		期間	2016 / 9 ~ 2017 / 6
		活動概要と成果	現地の大学で学びながら、ボランティア活動に参加した。参加したものとしては、現地大学の日本語学部のクラスのアシスタント、兵庫県立大学とエバーグリーン州立大学の交流イベント（現地交流、Skype交流）、能に関してのパネルディスカッションイベント、中国文化発信イベント等である。日本語クラスのアシスタントに関しては、留学期間中の全ての期間中、週に二度参加した。　日本語のクラスを通して、日本語を改めて見直し、現地の日本人の先生の指導を観察し、実際に指導していく中で、外国人の学生が日本語を学ぶ際の困難や日本語指導に関する基礎知識を獲得した。また、兵庫県立大学とエバーグリーン州立大学の交流イベントや能のパネルディスカッションイベントにボランティア参加することによって、海外との交流を目指した地域活動の企画方法を学んだ。具体的に私が考えたことの一つとして、海外との交流イベントを開催する際にはその国との橋渡しをする人物が必要不可欠であるということである。例えば、兵庫県立大学とエバーグリーン州立大学の学生交流イベントでは、私自身がアメリカと日本の橋としてお互いの理解の補助をすることができた。
	2	国名	
		都市名	
		受入機関名	
		期間	
		活動概要と成果	

派遣留学生等在籍大学等チェック欄 ※下記チェック欄にチェックし、学生にExcelデータで返却してください

（1）報告書の全項目が抜け漏れなく入力されている　☑チェック１

（2）報告書内容がきちんと留学経験を振り返った内容になっている　☑チェック２

確認日：2017年8月10日	確認者名：国際連携課　松田　愛菜